

令和4年度第5回人権問題都民講座

文学から考える戦争と平和—現代ロシア語文学の場合

フォローアップ企画

講師の翻訳作品とおすすめ文学作品の展示

展示書籍一覧

アレクサンドル・ソルジェニーツィン『イワン・デニーソヴィチの一日』

木村浩訳、新潮文庫、1963年

ワレンチン・ラスプーチン『生きよ、そして記憶せよ』

原卓也・安岡治子訳、講談社、1980年

アンドレイ・クルコフ『ペンギンの憂鬱』

沼野恭子訳、新潮社、2004年

スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』

三浦みどり訳、岩波文庫、2016年

サーシャ・フィリピンコ『赤い十字』

奈倉有里訳、集英社、2021年

リュドミラ・ウリツカヤ『緑の天幕』

前田和泉訳、新潮社、2021年

ヨシフ・プロツキー『小さなタグボートのバラード』（絵本）

沼野恭子訳、東京外国語大学出版会、2019年

藤井悦子、オリガ・ホメンコ編訳『現代ウクライナ短編集』

群像社、2005年

沼野恭子『ロシア万華鏡—社会・文学・芸術』

五柳書院、2020年

沼野恭子『100分de名著アレクシエーヴィチ「戦争は女の顔をしていない」』

NHK出版、2021年

沼野恭子『ロシア文学の食卓』

ちくま文庫、2022年